

第2学年〇組 道徳科学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時

場所 2年〇組 教室

児童数 〇〇名

授業者

1 主題名 親切のよさ 内容項目 [B 親切、思いやり]

2 ねらい 身近にいる人々に温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考え、話し合うことを通し、温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

教材名 「かっぱ わくわく」(出典:「新しい道徳2」 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校第1学年及び第2学年の内容項目は「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」である。親切は親和的人間関係形成の基盤となる心情や態度である。

この内容項目について、他の学年との関連をまとめると以下ようになる。

小学校第1学年及び 第2学年B	小学校第3学年及び 第4学年B	小学校第5学年及び 第6学年B	中学校B
身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。

低学年児童の段階においては、家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。

指導に当たっては、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして、身近にいる様々な人々とのふれあいの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにすることが求められる。また、その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為をしようとする態度を養っていききたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

思いやりをもって親切な行動ができるよう、以下のような指導を行ってきた。

①国語科の「うれしいことば」では、生活を振り返り、いつ、誰にどんなことを言われたことがうれしかったかを発表したり、出来事とそのときの気持ちを書いたりする学習を通して、どんなことを言ってもらおううれしいかを

考えた。うれしかった言葉、いやだった言葉について考え、発表することで自分が言われてうれしい言葉を使おうとする児童が増えた。また、良くない言葉を聞くと、注意する児童が増え意識が高まった。

②生活科の「うごく うごく わたしのおもちゃ」では、作ったおもちゃで友達と一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるように、友達と比べたり工夫したところを教え合ったりしておもちゃを改良し、みんなで仲よく楽しめるようにした。

③日常生活では、給食の配膳等で困ったことがあったときにもすぐに担任が手を出すのではなく、できる限り子供たちの助け合いで解決してきた。その一方、まだ自己中心的で、自分の利害に関わるトラブルが起きると、自分に都合のよい主張ばかりを通してしまったりする児童や、助けられるだけになってしまっている児童もいる。自分中心の考え方で人に接することが多くある一方、周囲の人々との人間関係を良好なものにしたいという気持ちも育つ時期である。

以上のことから、自分本位ではなく、相手を思いやりながら、親切にすることのよさを実感させたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

森の動物たちが助け合い、元気と勇気が湧く「わくわく水」を頭の皿に入れて出かけたかっぱのかんすけたち。途中で、かんすけは困っていた子ぎつねや小鳥に「わくわく水」を分けてあげる。帰り道に迷い困ったかんすけたちは、小鳥や子ぎつねに助けられる。仲間のすつくとざんごも、相手に親切にすることの大切さに気づいて親切な行動ができるようになる。進んで人に優しく親切にすることで、自分が困ったときにその相手が自分に親切にしてくれるという教材である。

本時では、「親切にすること」への気持ちについて後半で気づいていくのがすつくとざんごの二人である。かんすけと子ぎつね、小鳥との関わりと関係づけながらこの二人の気持ちの変化を確認し、親切にすることについて児童の考えにつなげていきたい。

そのため、本時は深化を意図して授業を行い、以下の流れに沿って、考えを深めることができるようにしていく。

本時の話合いでは、以下の流れに沿ってねらいとする道徳的価値観に迫っていく。

- ①かんすけは素直な親切心から子ぎつねや小鳥を助けたとこに触れつつ、すつくとざんごの「おいていくぞう。」につなげる。
- ②小鳥や子ぎつねがかんすけたちを助けた場面で、すつくとざんごが親切について考えるきっかけであることに触れ、中心発問につなげる。
- ③親切にすることで相手もうれしい、自分もすっきり、という心の動きにつなげる。

4 指導の工夫

① 学習課題の明確化

導入では、授業全体を通して追究していくテーマを掲げ、問題提起を行うことで、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。

② 児童相互の話合いを深める手立ての工夫。

ペアでの話合いや役割演技、意図的指名、問い返しの発問を適宜行うことでねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に考えながら、児童一人一人が課題に対する納得解を導きだせるようにする。

③ 板書の工夫

ねらいとする道徳的価値の考えを対比的に示し、学習の流れや児童の思考過程が見えるようにする。

④ ワークシートの工夫

書く活動を通して、ねらいとする道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深めさせる。また、話し合い前と話し合い後に同じ発問をすることで、意識の変容を児童が感じることができるようにする。

⑤ 指導観シートの活用

指導観シートを作成、活用し、教材を通して何を考えさせるのか、どういう発問をすることで児童が主体的に考えるのかを吟味し、明確な指導観のもとに授業を構想する。

5 学習指導過程

段階	学習活動○主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 学習課題について考えをもつ。</p> <p>○人に親切にするってどういうことだろう。</p>	<p>・困っている人を助ける。</p> <p>・手伝う。</p> <p>・優しくする。</p>	<p>・授業全体を通して追究していくテーマへの問題意識をもたせ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>導入の発問</p> <p>T:親切にすることってどういうこと。</p> <p>C:優しくする。</p> <p>T:優しくする以外で何がある。</p> <p>C:声をかけてあげる。席を譲ってあげる。</p> <p>T:(テーマ掲示)みんなで読みましょう。</p> <p>C:全員で音読。</p> <p>T:困っている人を助けたり、助けられたりしたことはありますか。</p> <p>書いてみてください。(ワークシート配布)①に書いてください。</p> <p>T:どんなことを書いたか発表してください。</p> <p>C:うれしい。</p> <p>T:それは助けたことですか、助けられたことですか。</p> <p>C:助けたこと。助けられてうれしい。助けられたこともある。私も助けたい。</p> <p>T:助けました。助けられました。その時にどう思いましたか。</p> <p>C:うれしかった。</p> <p>T:今日は、困っている人を助けると、どんな気持ちになるか考えてもらいます。</p> </div>		
展開	<p>2 教材「かっぱ わくわく」を読んで話し合う。</p>	<p>・登場人物(かんすけ・すっく・ざんざ)</p> <p>・地図を持って、元気と勇気がわく「わくわく水」を入れてのんのんのはらへ出発した。</p>	<p>・本時は、教材を通じて「人を助けるとどんな気持ちになるか」について考えることを伝える。</p> <p>・条件・状況をつかむ。(再現構成法)</p>

	<p>(1) かんすけはどんな気持ちから、迷子の子ぎつねやけがをした小鳥に「わくわく水」を上げたのでしょうか。</p> <p>○すつくとざんざはその様子を見てどう思ったでしょう</p> <p>(2) 小鳥や子ぎつねはどんな気持ちから、かんすけたちを助けてあげたのでしょうか。</p> <p>(3) すつくとざんざはどんな気持ちから、かんすけに「わくわく水」を分けてあげたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのまま放っておけない。 ・元気になってほしい、勇気を出してほしい。 ・困っているから助けたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ほうおっていけばいい ・早く行こうよ ・わくわく水なくなっちゃうよ <ul style="list-style-type: none"> ・親切にしてもらったお返しだよ。 ・助けてもらってうれしかったんだよ。 ・やくにたててうれしいな。 <ul style="list-style-type: none"> ・かんすけのおかげでたすけられたことのお礼だよ。 ・人に親切にすることが大事だと分かったよ。 ・今度はぼくたちが助けるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を高めるために、かっぱの特徴や、「かっぱわくわく」に登場するかっぱについて説明する。 ・教材の世界に浸れるように、教材提示する。場面絵等の視覚的手立てを工夫したり、教師が声色や演技等を入れたりしながら読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・かんすけは素直な親切心から子ぎつねや小鳥を助けたことに触れつつ、すつくとざんざの「おいていくぞう。」につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ・すつくとざんざが親切について考えるきっかけの出来事であることに触れ、中心発問につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ・親切にすることで相手もうれしい、自分もすっきり、という心の動きにつなげる。 ☆親切のよさのさまざまな人への広がりを考え、ワークシートに書いている。(ペア、発表、つぶやき、役割演技、ワークシート)
--	--	---	--

中心の発問

T: すくとざんざはどんな気持ちから、かんすけに「わくわく水」をわけてあげたのかな。

プリントに書いてみましょう。右がざんざで、ひだりがすつくです。

この時、どんな気持ちかで大事なわくわく水をあげたのか考えてみよう。

(T: (机間指導))

T: 今から隣同士で、書いたことについて話し合ひましょう。

C: (隣同士で意見交換)

T: では、ここに来て発表してみましょう。

Aくん(かんすけ)、Bくん(すつく)、Cくん(ざんざ)、お願いします。

C: (役割演技)

T: すつくさん、ざんざさん、どんな気持ちでしたか。

C: うれしい。お礼にわくわく水をあげるよ。

T: かんすけが元気になってどう思った。

C: うれしい。

T: かんすけさんにも聞いてみましょう。

C: うれしい。



3 「親切にすること」についてこれからの自分を見つめる。

○学習課題について考えたことや、感じたこと、これから自分はどうしていきますか。

・人に親切にすると、みんなが親切になれる。

・親切にすると気持ちがいい。

・友達に親切にしていきたい。

・学習から親切にすることについて考えさせ、これからの自分自身の生き方につなげていけるようにする。

☆日々の生活を充実させるために必要なことを考え、自分との関わりで考え伝えようとしている。(ワークシート、発表)

終末

4 教師の説話を聞く。

・親切な行為が次々と続いていった例を「親切のバトン」として話す。

T：今日の学習を振り返って感じたこと、今まではどうでしたか。これからどうしていきたいのか書いてみましょう。

T：では、発表してください。

C：これからは友達に優しくする。親切にしたい。みんなに親切にする。

T：最後にお話をします。2年1組さんを見ていて親切な人はいっぱいいます。鼻血を出したときにすぐに助けに行っていましたね。バケツの水を溢したときに拭いてくれたりと…親切はバトンなのです。親切ってたくさんの人に渡すと、みんながうれしい気持ちになります。他のクラスのみんなや、家族にもたくさんバトンを渡してみんなで気持ちよく生活しましょう。

6 他の教育活動との関連

- ・日常生活で「親切にしたこと、されたこと」を帰りの会で積極的に出し合い、認め合う場を設定する。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・登場人物たちに自分を重ね合わせ、それぞれの気持ちの変化を捉え、親切にするのよさや大切さについて考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・親切にするのよさや大切さについて自分との関わりで考えている

8 板書計画



